

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録（2025 年 1 月 16 日開催分）

開催年月日： 2025 年 1 月 16 日(木) 11:00～12:00
開催場所： 株式会社 WOWOW プラス内 Space17C 会議室
出席： 番組審議員 6 名
書類審査 1 名
WOWOW プラス 6 名

出席者

〔審議員〕青木眞弥、池ノ辺直子、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、村上典吏子
(以上 50 音順、敬称略)

〔放送事業者〕(株式会社 WOWOW プラス)

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、青木昭、内藤友基（記録撮影）、
高野佳彦（書記）

書類審査

〔審議員〕湯浅正敏（敬称略）

議題： (1) 2024 年 10 月～12 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について
(2) 「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項： 2024 年 10～12 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について

株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項： 〔審議番組〕

『映画史に残るハリウッド名画／特集企画と特別番宣』

<審議番組概要>

2024 年 12 月 31 日に特集企画「映画史に残るハリウッド名画」として『風と共に去りぬ』などの名作ハリウッド映画 4 作品を大晦日に一挙放送。特集企画の宣伝として、通常番宣（60 秒）では伝えきれない作品の魅力やスケール感を伝えるべく、映画予告を意識した 2 分の特別番宣を作品毎に制作。大晦日までの約 40 日間、WOWOW プラス内で本特別番宣を放送し、映画ファンの視聴誘導を図った。

- ・本特集企画への評価と、それが WOWOW プラス視聴者にとって価値ある企画と考えられるか
- ・特別番宣は各作品および本特集企画の訴求につながっているか

審議内容： ■審議員意見

- ・大晦日、紅白の裏で映画チャンネルとしての矜持が分かるラインナップである。各作品を 2 分で紹介していることは非常に良い。視聴者にとってぎりぎりの尺と感じられる。今回選ばれた作品は映画好きには馴染み深いものであるが、ストーリーや役者は覚えていてもすべてのシーンを記憶しているわけではないので、懐かしく、再度見てみたいと思わせ、また各作品の映画史の中での位置づけなども分かるような編集になっていた。40 日間流し続けていたことも含めて親切でよいと思う。

- ・配信サービスでは作品をふと見たいときに簡単に検索できるが、大作はなかなか出てこない。昔ながらの映画史に残る作品を視聴できることは素晴らしく、視聴率が取れなくてもこの取り組みを続けてほしい。各々内容をきちんと見せ誰が出ているのかが分かるので安心。最近の番宣は速すぎて内容が分からないものが多い中、こちらは分かりやすい。
- ・名曲や名作をセピア色の作品をカラフルにするように現代に蘇らせる方法があると思う。例えば「神田川」の歌詞に少しの説明を加えて新しい印象を与えるように。今回の紹介番組中、「映画史に残るハリウッド映画」というキャッチは耳に残るが、「風と共に去りぬ」の内容を「南北戦争の混乱の中で生きる女性を描いた」と説明しても不十分である。同じ2分なら例えば通販CMのように利用して誰かを登場させて喋り、最後に作品を紹介するスタイルは、格好はよくないかもしれないが内容を十分に語り、印象に残せる。ぜひ一度チャレンジしてみるべきである。
- ・映画史に残る名画や大作を今に伝えることは重要だが、それらは長尺で現在との馴染みも薄く、若年層には届きにくいように思える。なので如何に彼らに関心を持って貰うかの工夫が欲しかった。例えば現状より長めの尺にして、インフルエンサー、もしくは映画好き社員に解説させるなど。更に作品の放送順の意図についても説明があれば、さらに企画の主旨が伝わったのではないかと思う。映画のチョイスは名作揃いで良かった。
- ・個別の作品は興味を引きにくい、パッケージ感を出して見せる試みは評価できる。コアな映画ファンとしては少々総花的で、いっそ戦争映画大特集とか、1939年は映画大豊作の年で「駅馬車」「ゲームの規則」などの戦前の名作特集とか、アメリカンニューシネマ特集とか、もう少し振り切ってもよかったのでは。WOWOWで以前放送していた「ハリウッドエクスプレス」のような、視聴者に向けて放送する映画を紹介するような15分や30分の番組があるとフックが広がっていくと思う。
- ・番宣自体はしっかり作られているが、名作紹介を視聴に結び付ける工夫が必要である。作品の順番や「ディパーテッド」をやるならWOWOWの「ダブルフェイス」などに関連性を持たせた展開が求められる。往年の名作にアクセスする場所として名画座に、という状況ではなくなっていて、その代わりとして専門チャンネルや配信サービスがあり、名作を見る機会を提供する場、という意味では日本での専門チャンネルはすごく重要な役割を担っている、ということでもあるのでもっと攻めた方が良いと思う。
- ・ハリウッド史名画特選は、順当な選択だと思う。キネ旬報オールタイム、ベスト映画遺産200でも『風と共に去りぬ』は、ベスト1に選ばれている。独立系のアメリカンニューシネマなら、「イージーライダー」や「ファイブイージーピーセス」もあるが、ハリウッド系なら、『俺たちに明日はない』辺りであろう。

連絡事項： 次回番組審議会は、2025年4月17日(木)午前11時(予定)より開催。

以上